

長野県立歴史館たより

2006年 **春**号 vol.46





文明の曲がり角

館長 瀬良和征

世界中を見わたしても、わが国の四季ほどはっきりした、豊かで趣深い変化は例がないものがあると思います。そして、四季折りおり、それぞれの季節にはそれぞれの良さや特徴がありますが、多くの日本人がもつとも待ちこがれるのは春の到来ではないでしょうか。

この冬はまれに見る豪雪で、日本海側の山陰・北陸・東北地方は大きな被害をうけました。長野県においても、栄村の秋山郷等の集落が孤立したり、雪下ろしや落雪による死者あるいは家屋の倒壊などの被害が多く出たりしましたので、春を待ち遠しく思う心はなおさらのことであると思います。

この記録的な大雪の原因が明らかになればと思いますが、自然は複雑で、簡単に答えが出ない問題です。

私たち人類は、いうまでもなく生物の一種で、自然環境の許容する範囲でしか生存することができないのですが、現在の科学技術至上主義はそのことを忘れさせます。人間の生産活動を地球環境が許容できない状況まで押し広げている結果、急速に地球環境が破壊され、大気、水、土壌の汚染ばかりでなく異常気象までもたらしているのではないかと危惧するところです。

ところで、このところ日本の経済社会における所得格差の拡大が取りざたされることが多いのですが、世界を見渡せばわが国はまだまだ豊

かです。信じがたいと思われる方もおられるかも知れませんが、世界人口六五億人のおよそ八五%は、安全な水、医療、教育等、文明の恩恵から遠いといわれ、飢餓の恐怖におびえる毎日を送っている人びとも数知れません。産業革命以降の生産力の向上や社会・経済政策あるいは教育の普及の恩恵を受けられない人びとの方がはるかに多いのです。

また、世界で進んでいる市場経済化の波は、競争や労働強化をとめない、所得格差を拡大させるばかりでなく、各国・地域の固有な文化・宗教などを均一化し、家庭や地域社会のありかたを変容させます。

このような認識を前提にして二一世紀を考えますと、自然との共生を基本に、地域の慣習や伝統を大切に引き継ぎ、または復元し、家庭・地域・社会を再構築する世紀としたいものです。そして、このような時にこそ、過去をもう一度振り返り、先人に学ぶことが不可欠であると思います。歴史は先人たちの知恵の宝庫であり、人間と社会についての尽きせぬヒントを与えてくれるからです。

当館は先人たちと対話する機会を豊かにするため、県民の財産である歴史資料の収集・整理・保存の取り組みをさらに進めるとともに、さまざまな企画を一層充実してまいります。皆様のお越しを職員一同心よりお待ちしております。

二〇〇六年度の企画展示

今年度も、さまざまなテーマの展示会をおこないます。これにあわせ講演会・関連講座も実施します。お楽しみに。(行事などくわしくは「平成一八年度催しもの案内」などを参照下さい)

◇春季展「古瓦からみた信濃の古代

― 神津猛・米山一政寄贈資料を中心に ―
期 日 五月一九日(金)～六月二五日(日)
内 容 古代信濃の仏教に焦点をあてた展示です。廃寺跡からみつけた古瓦や瓦塔がらうなど数多くの出土品を展示します。

◇夏季企画展「幕末の信州―時代を駆けた草莽そうぼうたち―

期 日 七月二日(土)～八月二七日(日)
内 容 明治維新の動乱のなかで活躍した信州の志士たちの動きを紹介します。赤報隊関係資料など貴重な資料を数多く紹介します。

◇秋季企画展「戦時下の子どもたち

― 信州の十五年戦争 ―
期 日 九月三〇日(土)～十一月二日(日)
内 容 戦後六一年目の今年、子どもたちの生活に焦点をあててあらためて戦争と平和について考えてみたいと思います。また、戦時下で使用された木炭ガス発生装置など珍しい資料も展示します。

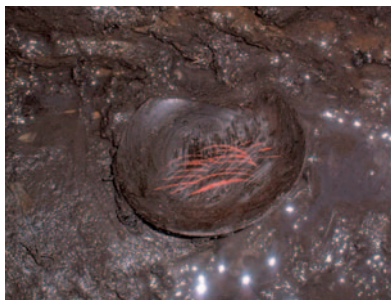
◇冬季展「信濃の人形―いのりと願い―

期 日 一月二〇日(土)～三月四日(日)
内 容 祈りと愛玩の対象だった人形の歴史をわかりやすく展示します。

◇長野県埋蔵文化財センター速報展二〇〇七

期 日 三月一七日(土)～五月二三日(日)
内 容 平成一八年度あらたに発掘された遺跡からみつけた資料を展示します。

(展示内容は変更する場合があります)



漆塗りの食器(千曲市東條遺跡出土)

漆塗りの食器、飯網町表町遺跡出土の中世の木製農具など、県内各地のさまざまな時代の遺物から、大昔の人びとの営みに思いをはせていただけると思います。

多彩な遺物

佐久市森平遺跡・西一里塚遺跡出土の弥生時代に使われた土器

飯田市竹佐中原遺跡の旧石器時代の石器群と、中野市千田遺跡の縄文人が実際に使った石囲炉を展示室内で再現します。日本最古級の石器の出土状態や、長野県最大級の炉の大きさを実感していただけるものと思います。

再現展示

飯田市竹佐中原遺跡の旧石器時代の石器群と、中野市千田遺跡の縄文人が実際に使った石囲炉を展示室内で再現します。

県財一展
野文化
蔵文夕
ン報
長埋七速

長野県の遺跡発掘二〇〇六

二〇〇六年三月一八日(土)～五月一日(木)
主催 長野県立歴史館・長野県伊那文化会館・長野県埋蔵文化財センター

体験広場

遺物に実際に触れながら考古学の楽しさを学べる新企画の「体験広場」を開催します。また、昨年度好評だった「解説シート」や「子供クイズ」も用意しています。

関連行事

◆調査報告会

会場 長野県立歴史館講堂
日時 四月八日(土)
午後一時～二時二〇分

報告遺跡 千田遺跡、森平遺跡、竹佐中原遺跡

◆講演会

演題 「アフリカ大陸の狩猟採集民」
会場 長野県立歴史館講堂
日時 四月八日(土)
午後二時二〇分～四時

講師 京都大学名誉教授 田中 二郎氏

◆体験広場

会場 長野県立歴史館企画展示室
日時 三月二五日(土)・
四月二九日(土)・三〇日(日)・
五月三日(水)～七日(日)
午前一〇時～午後三時

◆石のアクセサリづくり

会場 屋外展示

日時 四月二九日(土)・三〇日(日)
五月三日(水)～七日(日)
午前一〇時～午後三時

※参加者多数の場合は人数を制限させていただきます。場合もあります。

展示予定遺跡	所在地	おもな時代
竹佐中原遺跡	飯田市竹佐	旧石器時代
矢出川遺跡	南牧村野辺山	旧石器時代
沢田鍋土遺跡	中野市立ヶ花	旧石器時代
駒形遺跡	茅野市米沢	縄文時代前期
構井・阿弥陀堂遺跡	茅野市ちの	縄文時代前期～平安時代
千田遺跡	中野市豊津	縄文時代中期
川路大明神原遺跡	飯田市川路	縄文時代中期
辻原遺跡	飯田市山本	縄文時代
石子原遺跡	飯田市山本	縄文時代
森平遺跡	佐久市横和	弥生時代中期
西一里塚遺跡	佐久市石村田・平塚	弥生時代後期
南曾峯遺跡	長野市豊野	弥生時代
力石条里遺跡群	千曲市上山田	弥生時代
西中曾根遺跡	千曲市八幡	古墳時代中期
野火附遺跡	小諸市御影新田	古墳時代から平安時代
川久保遺跡	中野市豊津	古墳時代後期から近世
箕輪遺跡	南箕輪村中田	古代～中世
御社宮司遺跡	茅野市宮川	平安時代～近世
表町遺跡	飯網町牟礼	中世
東條遺跡	千曲市八幡	中世
天神城跡	佐久市協和	中世
高遠武家屋敷遺跡	高遠町高遠	幕末以降

七月六日(木)～二三日(日)には長野県伊那文化会館でも速報展を開催します。

文献史料をよむ

紙焼き現代史料 ― 第二次世界大戦後史料 ―

紙焼き現代史料

最初から耳なれない史料名をあげました。「紙焼き」とは何だろう、と思われる方が多いと思います。これは、長野県に関する貴重な戦後史料を、マイクロフィルム撮影で収集し、それを印刷・製本したものをいいます。

その史料には、林虎雄、日銀松本支店金融経済月報、桜井村農地委員会議事、東芝川岸工場労働争議、長野県連合青年団結成、八ヶ岳および菅平硫黄公害問題、有明演習地問題、南佐久連合婦人会、長野県婦人問題研究会、小海町連合婦人会、佐久病院、農協婦人会、日農長野県連合会、鼎町壮年団史、東信文学、上伊那農協総合資料、物見山神津牧場、八ヶ岳蔬菜発展史、長野県国道三十年史、四十年史などが集められ、現在公開・閲覧が可能となっています。

このなかから『佐久病院関係史料』を紹介してみたいと思います。

佐久病院関係資料

佐久病院は現在、長野県厚生農業共同組合連合会(厚生連)立の病院です。厚生連立になったのは昭和二五年のことでした。

この病院が現在、全国的にも世界的にも農村医学のメッカとして発展してきたのは、昭和二〇年に赴任してきた若月俊一外科医のリーダーシップによります。同年秋には、休日や勤務時

間外を利用して、無医村への出張診療をおこなっていました。それは病気の早期発見と予防医学の見地からでした。交通不便な山村への出張診療にチームを組んで牛車で出かけ、夜はその地でスタッフが劇団員に早変わりしました。『白衣の人々』『希望』『いけどり』『はらいた』など、若月みずから書いた脚本で娯楽を提供しながら、衛生知識の啓発をしたのです。

農村特有の過労と貧困と迷信に立ち向かうべく、医療スタッフにその調査をさせ(「出張診療日記」「佐久病院出張診療簿」、また山村と佐久病院の近代的検査施設とを直結させました。『佐久病院四十年のあゆみ』等によれば、若月は、世界の医師たちが危険なためにためらっていた骨髄カリエスの手術を、昭和二五年に佐久病院で初めて成功させた名外科医でもありま



若月俊一自筆戯曲『白衣の人々』の原稿の一部(佐久病院蔵)

すが、その技術とともに、彼の赴任当時からいっていた人道主義が今日の佐久病院の発展をもたらしたと言えるでしょう。

彼は貧困で科学知識に乏しい農村でも、都会と同じ高度な医療が受けられなければならないという理想をいっていました。そのため赴任後すぐに職場に労働組合をつくり、経営者の意識を変えさせました。次に当時の農業会の経営ではどうしても経営主義の病院になりやすく、そのため厚生連合会をつくるべく運動をはじめました。そして本当に医療を必要としている農民のための医療を目指しました。それにはトッパダウンの経営ではなく、スタッフが生き甲斐をもっていきいきと働ける民主的職場が必要と考えたのです。

昭和二五年に佐久病院従業員組合が出版した『農村医療の危機』は、交通不便な地域に住み、経済的に貧困で衛生知識の希薄な農民の病気が手遅れになって、助かる命の多くが、無駄死にしていることを理論的にアピールしています。その解決のためには、農民への啓発もさることながら、全額国庫負担での国民健康保険が必要であるという運動を起しました。

三〇年代には八千穂村全村民の健康手帳をつくり、健康管理を村ぐるみでおこない、全国に先がけて予防医学を確立しました。農民体操も佐久病院が発祥の地でした。また脳卒中、高血圧、神経痛など農夫(婦)病のための成人病センターもつくりました。医学は末端の患者と直結していなければならないという態度を貫きました。

二〇〇六年度

講演会・講座のご案内

★企画展講演会

長野県の歴史をわかりやすく解説する講演会を、夏・秋の企画展にあわせて、当館講堂にておこないます。当日受付、受講無料です。

夏季企画展講演会

①七月三〇日(日)

「国学思想と信州の幕末維新(仮)」

講師 長野県短期大学学長 上條 宏之氏

②八月二〇日(日)

「偽官軍と信州の御一新」

講師 元群馬県史編纂専門委員 中島 明氏

秋季企画展講演会

①一〇月八日(日)

「母・藤原ていの戦争体験を語りつぐ(仮)」

講師 作家 藤原 咲子氏

②一〇月二九日(日)

「戦時体制と学童疎開(仮)」

講師 長野県短期大学教授 荒 あら 敬 たかし 氏

★長野県立歴史館公開講座(講演会)

地域の具体的な事例を取り上げながら、郷土の歴史に親しむ講演会をおこないます。

①飯山公開講座

期日 七月一日(土)

会場 飯山市民館(当日受付・受講無料)

②上田公開講座

期日 一〇月七日(土)

会場 上田市中央公民館(当日受付・入場無料)

◆やさしい信濃の歴史講座

「いのる人びと」をテーマに開催します。一月から三月までの五回開催します。各回予約制です(受講料一回二〇〇円)。

第一回(原 始) 一月一日(土)

「土器と土偶から見た縄文人のいのり」

第二回(古 代) 一月九日(土)

「国分寺の建立と古代の仏教」

第三回(中 世) 一月十三日(土)

「名僧をつんだ仏国信濃」

第四回(近 世) 二月一〇日(土)

「伊勢参りと善光寺参り」

第五回(近現代) 三月一〇日(土)

「廃仏毀釈とキリスト教」

◆考古学講座

五月から一月までに六回開講します。考古学の話や遺跡探訪を予定しています。各回予約制です。なお、遺跡探訪の詳細については別途お問い合わせください。

第一回 五月二七日(土)

「古代史の謎 善光寺」

第二回 六月二四日(土)

「瓦屋根と古建築」

第三回 七月二九日(土)

「卑弥呼の時代と千曲川流域」

第四回 九月二三日(土)

「考古資料からみた古代の文化領域」

第五回 一〇月一四日(土)

「遺跡探訪会」

第六回 一月二五日(土)

「山の考古学―東北信地域の山頂の遺跡―」

◆古文書講座

三つの講座を五月から一〇月(八月をのぞく)まで月一回ずつ開講する予定です。古文書初心者を対象にした「初級」、くずし字辞典をひくことができる方を対象にした「中級」、辞典をひきながら近世文書をほぼ読むことができる方を対象にした「上級」の三講座です。上級講座では、近世文書のほか中世文書もとりあげ、時代背景も読みとくことを目指します。年間五回を通して受講することを原則とします。

申込受付期間 四月二七日(月)午前九時～四月二八日(金)

定 員 各講座四五名(受付先着順)

開講日 初級講座 原則第三土曜日午前

中級講座 原則第三日曜日午前

上級講座 原則第三土曜日午後

資料代 五回分 一〇〇〇円

【申し込み方法】

各種講座・講演会の申し込みは、はがき、またはEメールにより、受講希望講座名、住所、受講者氏名、電話番号をご記入の上、当館宛てにお送りください。当館エントランス受付でも申し込みが可能です。なお複数名のお申し込みをされる場合は、必ず希望者それぞれについて必要事項を記入してください。やむを得ずテーマ・内容等変更する場合もございますので、詳細は事前に電話でお問い合わせください。

TEL 〇二六―二七四―二〇〇〇(代)

Eメール rekisika@pref.nagano.jp

研究の窓

古瓦からみた信濃の古代

◆日本における瓦の登場

日本で最初に瓦で屋根が葺かれたのは六世紀末の飛鳥寺とされます。(焼物の瓦を屋根に葺くことはそれ以前にはなかったことでした)。瓦を葺くと建物が一段と重くなるため、柱が地面に沈まないように、柱の下に石が据えられました(礎石)。

瓦といえば寺院というイメージが強いのですが、中国では宮殿や墓にも瓦が使われています。日本でも官衙(役所)や駅屋に瓦が葺かれていたので、古い瓦が出土するからといって寺院跡とはいえません。

しかし、当時瓦を葺く建物の多くが寺院であったと思われるので、古い瓦が数多く出土する遺跡は、寺院跡とされることが多いようです。

◆出土古代瓦からわかること

日本最古の寺院とされる飛鳥寺の瓦の文様は、飛鳥寺が百済の技術で造られたため百済の瓦と似ています。瓦は、寺院のある地域や集団の性格を知る手がかりにもなります。

寺院では、瓦は多量に必要なので、瓦を焼いた場所(瓦窯)から瓦をど

のように運ぶかは大問題でした。多くの寺院が川沿いにつくられているのは、瓦を運搬するのに便利だったためかもしれません。また出土した瓦から、どこで焼かれ、どのように運ばれたのかがわかることもありま

す。瓦の文様(様式)から瓦がつけられた年代が推測できるので、寺院などの建立年代を知る手がかりにもなります。しかし、瓦は耐久性に優れ、古代寺院の中には創建当時の瓦を他の新しい寺院に譲ったりすることがあるほか、瓦の文様の型を使い回しすることもあるので、瓦の様式と寺院の創建年代の関係解明は一筋縄ではいかないようです。

◆瓦からみた信濃の古代

信濃国分寺跡(上田市)のように、位置、建立された年代、名称などが発掘調査と文献研究の成果とうまく整合することもありますが、古代瓦は出土するが、文献から寺院の名前がわからないこともあります。

しかし、瓦の文様や製作技術は、瓦工人の系統や古代氏族の性格や歴

史を知る上で、重要な手がかりとなります。

たとえば、安曇野市明科廃寺も当時の文献には、これに相当する寺院の記録は見えません。しかし、遺跡から多量の瓦が出土しただけでなく、瓦を葺いたと考えられる建物跡や瓦を焼いた窯(桜坂窯跡)が発掘されています。さらに明科廃寺の瓦の文様は飛鳥寺の瓦に似ているので、飛鳥寺の技術が導入されて、地元の氏族がつくった寺院と考えられます。

古代寺院の多くは渡来系氏族の技術によってつくられていますので、信濃の古代寺院建設にも彼らがかかわったかもしれません。

千曲市屋代遺跡群や雨宮廃寺とされる古瓦散布地からも古代瓦が出土しています。氏寺(地域豪族の私的寺院)が官寺(公的な寺院)になった定額寺の一つ、屋代寺の瓦ではないかと推定されています。

こうした地域の寺院のほかに、国家的な政策でたてられた寺院、国分寺・国分尼寺があります。

信濃国分寺の瓦の多くは全国の国分寺のなかでもその中心的存在の東大寺(奈良市)とよく似ています。これは信濃国分寺の造営に、律令国家の支援があったためです。

一方で信濃国分寺には信濃独特の

瓦も使われています。この瓦と同じような文様の瓦は坂城町土井の入窯跡や須坂市左願寺廃寺から出土しています。また信濃国分寺跡周辺では、各郡の一字を記した瓦が出土している。信濃国分寺は信濃の各地域の協力によってつくられたとも言えそうです。

当館では神津猛 米山一政両氏寄贈資料を中心に、平成一八年度春季展「古瓦からみた信濃の古代」を開催します。古代瓦と古代史の謎をみなさんと一緒に考えたいと思います。ぜひご来館下さい。

(川崎 保)



須坂市左願寺廃寺跡出土古瓦 千曲市屋代遺跡群出土古瓦

春の京都東山を描いた屏風である。表紙写真は第三・四扇の一部で、八坂神社、祇園界限、建仁寺周辺の名所がちりばめられている。花見に興じ芝居を楽しんだり商いに精を出す人びとのようすがいきいきと表現されている。

■行事アルバム

【12月4日 特別公開シンポジウム】



千曲市社宮司遺跡から出土した六角木幢（もくどう）の複製が完成し、特別公開されました。シンポジウムではこの遺跡や木幢の性格を考えながら、北信濃の平安時代の仏教文化の姿をめぐって意見がかわされました。

【1月14日 やさしい信濃の歴史講座 第3回】



11月からはじまったやさしい信濃の歴史講座。今年は「たたかう人びと」をテーマに原始時代から近現代までの信濃の戦争と平和の歴史について学んでいます。「川中島合戦の裏面」と題した第3回目には166名の受講者がありました。

【1月28日～3月5日 雛人形と雛道具】



恒例となった雛人形展です。今年は月岡家の古今雛、生糸商田中平八ゆかりの雛人形と雛道具のほか、女性の身だしなみにちなんだ衣装や調度品などを展示しました。折紙講座や読み聞かせなどの行事も好評でした。

■編集後記

大雪と寒波にみまわれた冬でしたが、いよいよ芽吹き季節になりました。千曲市森のアンズも花盛りとなります。この機会にさらにおおぜいの皆様楽しんでいただける歴史館をめざします。今年度もたくさんの企画を用意しました。ご家族ご近所お誘いあわせて、ご来館ください。

長野県立歴史館たより 春号 vol.46
2006年(平成18)3月17日発行
編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代清水 科野の里歴史公園内
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail rekishikan@pref.nagano.jp
ホームページ http://www.npmh.net

INFORMATION
インフォメーション

■2006年

4月～9月の行事予定

4月

休館日
3(月)・24(月)

県埋文センター
速報展

長野県の遺跡発掘2006
3/18(土)～5/11(木)
調査報告会・講演会4/8(土)
「アフリカ大陸の狩猟採集民」
講師：京都大学名誉教授
田中二郎氏

常設展示替え

- ・発達した狩りの道具
- ・屋代木簡の世界
- ・富裕農民の世界
- ・木曾義仲と荘園
- ・大名と百姓
- ・工女の生活
- ・人権拡張運動
- ・打撃を受けた県民の暮らしと満州移民

5月

休館日
8(月)・15(月)
22(月)・29(月)

常設展示替え

- ・大庄屋の仕事と暮らし

春季展

古瓦からみた信濃の古代
5/19(金)～6/25(日)
講演会 6/4(日)
講師：上田市立信濃国分寺資料館館長
倉澤正幸氏

講座

古文書講座
5/20(土) 初級・上級
5/21(日) 中級(第1回)
考古学講座
5/27(土) (第1回)

6月

休館日
5(月)・12(月)
19(月)・26(月)

常設展示替え

- ・近世の興行

講座

古文書講座
6/17(土) 初級・上級
6/18(日) 中級(第2回)
考古学講座
6/24(土) (第2回)

7月

休館日
3(月)・10(月)
18(火)・24(月)
31(月)

常設展示替え

- ・庶民の旅
- ・お蚕さま
- ・戦時下の県民の暮らし

公開講座

7/1(土)
飯山地域の歴史と風土
会場：飯山市公民館

夏季企画展

幕末の信州
一時代を駆けた草莽たちー
7/22(土)～8/27(日)
講演会① 7/30(日)
「国学思想と信州の幕末維新(仮)」
講師：長野県短期大学学長
上條宏之氏

講座

古文書講座
7/15(土) 初級・上級
7/16(日) 中級(第3回)
考古学講座
7/29(土) (第3回)

8月

休館日
7(月)・21(月)
28(月)

常設展示替え

「偽官軍と信州の御一新」
講師：元群馬県史編纂専門委員
中島 明氏

常設展示替え

- ・大塔合戦から川中島合戦へ

9月

休館日
4(月)～11(月)
19(火)・25(月)

常設展示替え

- ・条里と水田

講座

古文書講座
9/16(土) 初級・上級
9/17(日) 中級(第4回)
考古学講座
9/23(土) (第4回)

9/4(月)～11(月) 全館くん蒸期間中休館